題目　中学時代におけるストレッサーとソーシャルサポートが
不登校傾向に及ぼす影響について

A33059　伊藤朱真理

1.目的

本研究の目的は、中学時代における不登校傾向の要因として、どのようなストレッサー、ソーシャルサポートが存在するのかを明らかにし、不登校傾向に対するストレッサーとソーシャルサポートの影響を調べ考察することである。

２.方法

公立高等学校１、２年生 426 名を対象に、中学生時代を想起してもらい記入する質問紙調査を実施した。質問紙の尺度は、児童青年用ストレッサー尺度、中学生用ソーシャルサポート尺度、不登校傾向尺度を用いた。

3.結果

不登校傾向尺度によって一般群、不登校傾向群、遅刻早退群、不登校感情群の４つに分類し、ストレス度、ソーシャルサポートとの分散分析を行った。その結果を表１、２に示した。

表１　群別ストレス度の平均と標準偏差及び分散分析結果

	不登校傾向群	遅刻早退群	不登校感情群	一般群	F 値
親ストレス	42.89(15.47)	46.28(11.65)	45.05(13.10)☆	40.24(11.92)	4.69**
友人ストレス	59.15 (17.60)☆	57.70(19.13)	59.89(16.48)☆	49.94(13.82)	12.09***
集団生活・日常生活ストレス	52.26(13.23)☆	52.26(12.90)☆	50.93(10.29)☆	44.73(9.03)	13.89***
教師ストレス	28.00(9.02)☆	30.80(7.56)☆	27.09 (7.31)☆	23.32(7.16)	13.55***
学業ストレス	29.00(8.52)	28.03(7.43)	30.73(6.20)☆	28.17(5.20)	4.72**

表２　群別ソーシャルサポート得点の平均と標準偏差及び分散分析結果

	不登校傾向群	遅刻早退群	不登校感情群	一般群	F 値
父	10.41(5.03)	10.22(4.20)☆	11.70(4.77)	12.91(3.89)	5.36**
母	12.63(5.40)☆	11.79(4.71)☆	13.67(4.34)☆	15.05(3.46)	8.53***
教師	9.60(4.30)☆	8.84(3.68)☆	10.43(4.10)☆	12.49(3.81)	13.69***
友達	14.70(4.19)	15.30(3.05)	14.37(4.29)☆	15.95(3.03)	5.58***

(*p<.05,**p<.01,***p<.001)

４.考察

一般群と比べて、不登校傾向群は友人、生活、教師に対してストレスを感じており、母親、教師からサポートを受けているという感覚に乏しかった。遅刻早退群は、生活、教師ストレスを感じ、両親、教師からサポートを受けられないと感じていた。不登校感情群は、一般群に比べ、全てのストレス因子において有意に高く、特に友人ストレスが最も高いうえ、友人からのサポートも受けられないと考えていること、また不登校感情群は、母親、教師からもサポートを受けているという感覚が一般群と比べて有意に低かった。不登校傾向群と一般群の間には、友人ストレス、生活ストレス、教師サポートが深く関連していることが判別分析の結果から得られ、友人・生活ストレスを軽減させること、教師からサポートを得ていると感じることで不登校傾向が抑制されると考えられる。